

連載：第 36 回 亀ちゃんにも言わせてよ！

「自分用チョコ」に感じたことから

前号のあらすじ

今年のバレンタインデーに「自分用チョコ」を買うことが、大人にも子どもにも広がっているというニュースを見た。私はこの 10 年くらい、「頑張った自分へのご褒美」として高価な物を買ったり、贅沢な旅行をしたりする OL などが増えていると感じていた。そして「自分へのご褒美」が社会の前面に出すぎること、相対的に他人を思いやる気持ちが劣後しているのではないかと、何となく不安の混じった違和感を持っていたが、最近、平凡社新書の岡田尊司著『人格障害の時代』を読み、違和感の正体を見たような気がしたのである。この本では「現代人が示す自己愛性、自己愛的精神構造が、人格障害を生み出す根本的問題である」と述べられている。私はこれを、自己愛自体を否定するのではなく、それによって個々人や社会全体から「ほどよさが失われ、極端になる」ことに警鐘を鳴らしているのだと解釈した。(編集担当)

二極分化もか

また、この問題と現在みられる二極分化を関連づけている部分も興味をひきました。両極の間で中間がない考え方や価値観はいつの間にか日本の社会にも浸透してきていますよね。何でも二者択一的に考える、いわゆるデジタル思考(0か1かですべてを考えるコンピューターと同じ)が広がりを見せているように思えます。このような考え方自体、必ずしも悪いものではないかもしれませんが、上述本によれば、人格障害の人の思考方法と同じであるということです。ですから、やはり、社会全体が何でも 0 1 思考で考えたり、さらには、中間的意見や考え方をはじめから否定するように極端になることは、社会自体が人格障害になってしまうのと同じことになるのではないのでしょうか。恐ろしいですね。

私たちは、戦後、個々人の多様性を重視する方向で歩みを進めてきたはずなのに、気がつけば、あらゆることに 0 か 1 かに分けられる 2 つの選択肢しかもたない(または、もてない)者になってきているのでしょうか。そして、これもまた、病んだ社会の象徴的に取り沙汰されるこ

ともある人格障害を増加させる一因になっているのでしょうか。困った大人や子どもっぽい大人が増えているような気がしていたのは、社会全体が徐々に人格障害「的」になっていたからかな？

深く考えよう

この問題については、まだまだ十分な検討や議論が必要かもしれませんが、もし、上述の指摘のように、大人たちがつくりあげてきた社会がその基本構造の部分で問題があるとしたら、そして、それが現在の社会問題となっている諸問題(少なくとも犯罪や少年問題)の共通の要因であるならば、子どもたちへのマイナスの影響は想像するに難くありません。

教育基本法に愛国心を盛り込むかどうかだとか、少年法をいじって重罰化するかどうかなんて議論している場合ではありませんよね。「近頃の子どもは…」なんて表面的なことに終始するのではなく、もっと根本の問題をきちんと洗い出す所から始めないと、少年問題は深刻化するばかりでしょう。今からでも、問題の本質を見据えた議論ができるように、まずは大人たちが深く考え始めましょう。

[独り言] 社会全体が人格障害的になってきているとしたら、国会議員にも人格障害「的」な方がいらっしやる可能性があります。そう言われると、そうかなと思う人がよく TV に映るような人だったりして…。やたらと極端で頑固な方いますよね。そう言えば、外国政府にもいたような…気がして…。

亀山憲一 [会員・フリーで活動中の法学的研究者
(犯罪学・刑事法)